

	2007年	2008年	2009年
①人口:1,051万人(2009年末,推計)			
②面積:7万8,867k m ²			
③1人当たりGDP:1万8,557米ドル (2009年)			
④実質GDP成長率(%)	6.1	2.5	△4.1
⑤貿易収支(米ドル)	59億940万	63億3,260万	80億3,429万
⑥経常収支(米ドル)	△57億4,690万	△12億5,510万	△21億4,600万
⑦外貨準備高(米ドル)	345億5,000万	366億5,500万	411億5,700万
⑧対外債務残高(米ドル)	760億4,340万	830億8,830万	865億4,890万
⑨為替レート(1米ドルにつき, コルナ,期中平均)	20.2937	17.0717	19.063

[注] ⑤:財のみ, ⑤⑥:国際収支ベース
[出所] ①②④:チェコ統計局, ③⑦⑨:IMF, ⑤⑥⑧:チェコ国立銀行

2009年のチェコ経済は、世界的な金融危機の影響により実質GDP成長率がマイナス4.1%と大幅に鈍化した。また、貿易額も経済危機の影響を強く受け、輸出額、輸入額ともに前年比22.9%減、26.3%減となった。しかし、輸入額の減少が輸出額の減少を上回ったことにより、2009年通年では貿易黒字が過去最高を更新した。一方、対内直接投資額についても、経済危機の影響を強く受け、前年比57.8%と大幅に減少した。投資では、製造分野の新規進出が減少する一方、製造以外の分野での案件が見られた。

■ 2009年第2四半期で底入れし、景気回復へ

2009年のチェコの実質GDP成長率はマイナス4.1%と、前年の2.5%から大幅に後退した。2008年に起きた世界金融危機の影響を強く受け、供給面では鉱工業生産が15.9%減少、建設業も1.0%減少した。また需要面では、個人消費が0.1%増となったが、輸出の伸び悩みにより、輸出企業における生産縮小から、解雇や賃金凍結があったことが、個人消費の鈍化の要因の一つとなっている。

四半期ごとの実質GDP成長率を前年同期比でみると、2009年は第1四半期のマイナス3.6%からマイナス4.7%(第2四半期)、マイナス4.4%(第3四半期)、マイナス3.2%(第4四半期)、1.1%(2010年第1四半期)と、2009年第2四半期で底を打った後、回復の兆しをみせている。国内の個人消費が2010年3月に17カ月振りに前月比で増加したこともあり、財務省は2010年のGDP成長率を

1.6%(チェコ国立銀行は1.4%、民間銀行のアナリストは1~2%)、2011年は2.3%とプラス成長に回復すると予測している。

2009年の貿易(通関ベース)は、輸出が前年比22.9%減の1,128億8,500万ドル、輸入が26.3%減の1,048億5,000万ドルと、ともに大幅に減少した。貿易黒字は、前年比89.8%増の80億3,500万ドルと過去最高を記録した。貿易黒字は2005年以降拡大傾向にあるが、2009年に大幅に拡大した理由に、輸入の減少幅が輸出の減少幅を上回ったことが挙げられる。

2010年第1四半期の貿易は、輸出・輸入ともにそれぞれ前年同期比25.7%増、23.5%増と大幅に増加している。これは主として景気回復の兆しがみられる西欧向けに自動車(構成比9.9%)、自動車部品(7.1%)および事務機器(6.3%)の輸出が軒並み前年同期比4割以上増加した

表1 チェコの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル,%)

	輸出(FOB)				輸入(CIF)			
	2008年	2009年			2008年	2009年		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
機械類・輸送用機器	78,724	60,187	53.3	△ 23.6	58,693	43,301	41.3	△ 26.2
原料別製品	28,638	20,011	17.7	△ 30.1	28,160	18,586	17.7	△ 34.0
雑製品	15,670	13,300	11.8	△ 15.1	14,789	12,497	11.9	△ 15.5
化学製品	8,743	7,145	6.3	△ 18.3	14,651	11,697	11.2	△ 20.2
鉱物性燃料	4,976	4,094	3.6	△ 17.7	14,750	9,620	9.2	△ 34.8
食料品・生きた動物	4,587	4,021	3.6	△ 12.3	6,193	5,647	5.4	△ 8.8
食料に適さない原材料	3,860	3,008	2.7	△ 22.1	3,807	2,375	2.3	△ 37.6
飲料・たばこ	966	873	0.8	△ 9.7	745	725	0.7	△ 2.7
動植物性油脂	165	139	0.1	△ 16.0	265	283	0.3	6.6
特種取扱品	77	109	0.1	41.8	119	121	0.1	1.3
合計(その他を含む)	146,406	112,885	100.0	△ 22.9	142,172	104,850	100.0	△ 26.3

[出所] 表2, 7, 8とも、チェコ統計局。

ことによるものである。しかし、金融危機前の 2008 年同期の水準には戻っていない。

■ドイツ向け自動車輸出は 4 割増

2009 年の輸出を品目別にみると、構成比に過去数年間、大きな変化は見られない。構成比 53.3%を占める機械類・輸送用機器が、金額では前年比 23.6%減となった。機械類・輸送用機器の中でも土木・建設機械等は前年比 53.3%と大きく減少している。一方、輸送用機器は、ドイツをはじめ、フランス、イタリア、スペインなど、自動車買い替え支援策が導入された西欧向け輸出が好調で、EU15 向け自動車輸出(構成比 11.4%)は前年比 7.9%の増加となった。チェコに生産拠点を持つシュコダなどの自動車メーカーが西欧における買い替え需要への対応から輸出台数を増加させたことが背景にある。自動車・同部品に次ぐ構成比を持つコンピュータ機器(5.5%)や薄型テレビ(2.6%)は、欧州の景気後退により、それぞれ 16.3%減(61 億 7,457 万ドル)、31.4%減(28 億 9,918 万ドル)と、軒並み減少した。

輸出を国・地域別にみると、EU27 向け(構成比 84.7%)が最大で、前年比 23.4%減であった。最大の輸出先であるドイツ向け(32.3%)は、19.0%減であるが、EU27 向け(23.4%減)やユーロ圏向け(21.7%減)ほど減少していない。この理由として、ドイツ向け輸出のうち、9.1%を占める乗用車が 40.8%増だったことが挙げられる。ドイツ国内の自動車登録台数はドイツ政府の自動車買い替え支援策により、前年比 23.2%増(欧州自動車工業会)の 380 万 7,175 台と大幅に増加した。この買い替え需要に対応して

輸出を増加させたのが、国内自動車メーカーのシュコダ(フォルクスワーゲングループ)である。同社のドイツ向け輸出台数は前年比 44.3%増の 16 万 2,328 台となった。同社の国内生産台数が 51 万 9,645 台(14.0%減)であることから、単純計算すると 2009 年の生産台数の 3 分の 1 弱がドイツに輸出されたことになる。同社のドイツ向け輸出を車種別にみると、輸出台数の半分(8 万 3,495 台)を「ファビア II」シリーズ(ハッチバックタイプとワゴンタイプ)が占める。同社の自動車はチェコだけでなく、スロバキア、ロシア、ウクライナ、カザフスタン、インド、中国といった新興国で生産されている。その中でも中国における販売台数(2009 年)は前年比倍増の 12 万 2,556 台とドイツに次いで大きいマーケットで、同社にとって中国は生産と販売の双方で重要な国となっている。

輸入を品目別にみると、機械類・輸送用機器(構成比 41.3%)が前年比 26.2%の減少となった。電子機器(構成比 9.9%、前年比 16.2%減)、自動車(8.1%、29.0%減)、事務機器(7.3%、13.2%減)、通信機器(5.2%、33.3%減)などの減少が響いた。原料別製品(構成比 17.7%)も前年比 34.0%減少した。これには鉄鋼(構成比 4.2%)の減少(前年比 48.8%減)が大きく影響した。国内自動車生産台数の半分を占めるシュコダの生産台数減少など、鉄鋼を原料とする産業における需要減が大きく影響したといえる。

輸入を国・地域別にみると、最大のドイツ(構成比 26.7%)からの輸入が前年比 26.7%減少した。ドイツからの最大の輸入品目である自動車・同部品(構成比 12.8%)が 36 億 1,834 万ドル、29.6%減少したことが影響した。一

表 2 チェコの主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位:100 万ドル, %)

	輸出(FOB)					輸入(CIF)			
	2008 年	2009 年				2008 年	2009 年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
EU27	124,796	95,576	84.7	△ 23.4	EU27	95,397	70,129	66.9	△ 26.5
ユーロ圏	96,607	75,627	67.0	△ 21.7	ユーロ圏	76,382	56,177	53.6	△ 26.5
ドイツ	44,969	36,439	32.3	△ 19.0	ドイツ	38,119	27,960	26.7	△ 26.7
スロバキア	13,442	10,186	9.0	△ 24.2	スロバキア	7,886	5,709	5.4	△ 27.6
フランス	8,028	6,352	5.6	△ 20.9	イタリア	6,381	4,596	4.4	△ 28.0
オーストリア	6,938	5,315	4.7	△ 23.4	フランス	5,831	4,056	3.9	△ 30.4
イタリア	6,833	4,940	4.4	△ 27.7	オーストリア	5,304	3,836	3.7	△ 27.7
非ユーロ圏	28,189	19,949	17.7	△ 29.2	非ユーロ圏	19,016	13,952	13.3	△ 26.6
英国	7,039	5,574	4.9	△ 20.8	英国	3,417	2,280	2.2	△ 33.3
ポーランド	9,502	6,578	5.8	△ 30.8	ポーランド	8,341	6,736	6.4	△ 19.2
トルコ	800	843	0.7	5.3	トルコ	985	732	0.7	△ 25.7
米国	2,540	1,806	1.6	△ 28.9	中国	12,447	10,546	10.1	△ 15.3
ロシア	3,988	2,620	2.3	△ 34.3	ロシア	9,141	5,395	5.1	△ 41.0
日本	550	425	0.4	△ 22.7	日本	4,723	3,291	3.1	△ 30.3
韓国	271	267	0.2	△ 1.5	韓国	1,487	1,355	1.3	△ 8.9
インド	635	604	0.5	△ 4.8	インド	511	457	0.4	△ 10.6
中国	778	844	0.7	8.5	米国	2,927	2,202	2.1	△ 24.8
合計(その他を含む)	146,406	112,885	100.0	△ 22.9	合計(その他を含む)	142,172	104,850	100.0	△ 26.3

方、ドイツに次ぐ輸入相手国である中国(10.1%)からの輸入は15.3%減少した。コンピュータ機器・同部品(構成比32.0%)と通信機器・同部品(17.5%)がそれぞれ8.0%、23.2%減少したのが影響した。

■ 対外直接投資で目立つインフラ関連

2009年の対内直接投資は、世界的な投資活動の鈍化に加えて国内景気の不透明感から、前年比57.8%減の27億2,608万ドルとなった。2年連続で減少しており、2007年(104億3,647万ドル)の約4分の1にまで減少した。国・地域別で見ると、EU27が16億2,500万ドルで最大だった。主要業種別にみると、製造業で引き揚げ超過となっているが、サービス業の金融・保険、不動産分野への投資金額が大きい。

特に注目される投資として、2009年2月の製薬大手サノフィ・アベンティス(仏)によるチェコの後発医薬品会社ゼンティヴァの買収(株式の100%、投資総額約23億5,600万ドル)がある。サノフィ・アベンティスは、中・東欧で強固

な基盤を持つゼンティヴァの将来性に着目した。また、重電メーカーの斗山重工業(韓国)による重電メーカーのシュコダ・パワーの買収(株式の100%、投資総額6億5,600万ドル)がある。シュコダ・パワーは、タービンの基幹技術を有する企業で、同社のタービンは62カ国に450基以上の供給実績がある。2010年に入ってから、ソーラー・タービNZ(米国の重機メーカー、キャタピラーの子会社)が同年3月、チェコ西部のジャテツ・トライアングル工業団地に、欧州や中近東向けの太陽熱ガスタービンの修理センターを設立し、450人を新規雇用すると発表している。

一方、オランダは12億1,880万ドルの引き揚げ超過を記録した。これには、大手家庭用品メーカーのユニリーバ(オランダ)のチェコからの撤退が含まれているとみられる。

2004年5月のEU加盟を契機に、自動車や電機分野などを中心に外国資本による製造業の進出で、いち早く急速な経済成長を遂げたチェコは、次の成長エンジンとして研究開発(R&D)の推進、ハイテク分野の産業育成に力を注いでおり、製造業偏重の投資誘致から脱却しつつある。また、対内投資の形態にも変化が表れてきている。チェコインベスト(チェコ投資庁)の商業用不動産に関する調査

表3 チェコの主要業種別対内投資<国際収支ベース、ネット>
(単位:100万ドル、%)

	2008年		2009年(推計)	
	金額	金額	構成比	伸び率
製造業	814	△ 888	-	-
自動車	△ 103	△ 257	-	-
非金属鉱物	220	189	6.9	△ 14.1
食品	435	176	6.5	△ 59.6
サービス	6,426	3,473	127.4	△ 46.0
金融・保険	3,007	2,081	76.3	△ 30.8
不動産	2,896	1,568	57.5	△ 45.9
小売り・修理	302	697	25.6	130.5
建設	△ 55	235	8.6	-
電気・ガス・水道	766	△ 348	-	-
合計(その他を含む)	6,465	2,726	100.0	△ 57.8

〔出所〕表4、5、6とも、チェコ国立銀行。

表4 チェコの国・地域別対内投資<国際収支ベース、ネット>
(単位:100万ドル、%)

	2008年		2009年(推計)	
	金額	金額	構成比	伸び率
EU27	5,816	1,625	59.6	△ 72.1
ユーロ圏	6,406	2,267	83.2	△ 64.6
オーストリア	2,139	1,321	48.5	△ 38.2
ベルギー	△ 121	1,219	44.7	-
キプロス	84	670	24.6	695.5
フランス	1,165	526	19.3	△ 54.8
ドイツ	541	347	12.7	△ 35.9
オランダ	1,031	△ 1,219	-	-
非ユーロ圏	△ 588	△ 642	-	-
リヒテンシュタイン	219	53	16.8	△ 75.7
英国	△ 710	△ 447	-	-
米国	△ 476	744	27.3	-
日本	△ 236	△ 9	-	-
合計(その他を含む)	6,465	2,726	100.0	△ 57.8

表5 チェコの主要業種別対外投資<国際収支ベース、ネット>
(単位:100万ドル、%)

	2008年		2009年(推計)	
	金額	金額	構成比	伸び率
製造業	60	△ 282	-	-
化学・化学製品	△ 194	48	3.6	-
電気機器	△ 8	34	2.6	-
木材、出版・印刷	4	4	0.0	0.0
医療・精密機器	0	1	0.0	-
サービス	4,313	1,311	97.8	△ 69.6
電気・ガス・水道	241	1,582	118.0	555.2
不動産	3,559	180	13.4	△ 95.0
金融・保険	144	△ 423	-	-
小売り・修理	394	△ 115	-	-
合計(その他を含む)	4,332	1,340	100.0	△ 69.1

表6 チェコの国・地域別対外投資<国際収支ベース、ネット>
(単位:100万ドル、%)

	2008年		2009年(推計)	
	金額	金額	構成比	伸び率
EU27	4,188	646	48.2	△ 84.6
ユーロ圏	3,760	△ 29	-	-
オランダ	3,235	556	41.5	△ 82.8
ドイツ	296	142	10.6	△ 52.0
非ユーロ圏	428	675	50.3	57.5
ルーマニア	349	615	45.9	76.1
ブルガリア	47	51	3.8	8.2
ハンガリー	△ 25	62	4.7	-
スロバキア	145	△ 342	-	-
ロシア	55	25	1.8	△ 55.4
トルコ	△ 1	516	38.5	-
米国	△ 17	61	4.5	-
日本	-	△ 24	-	-
合計(その他を含む)	4,332	1,340	100.0	△ 69.1

(2009 年上半期)によれば、投資家の 57%がリース工場を、34%が工業団地を、9%がブラウンフィールドをそれぞれ求めているという結果だった。1989 年以降で初めて、リース工場での操業が工業団地における土地の購入による操業を上回った。リース工場での操業は立ち上げから操業開始までのリードタイムが短い点が好評であり、リードタイムが長い工業団地への進出が敬遠される傾向にあると同庁は分析している。

2009 年の対外直接投資は、世界経済の低迷により 13 億 4,000 万ドル(前年比 69.1%減)となった。国・地域別にみると、EU27 が 6 億 4,600 万ドルと半分を占める。その中でもルーマニア(6 億 1,500 万ドル)が、全体の半分近くを占める。チェコ電力(CEZ)は、ルーマニアの出資会社 CEZ Vanzare と CEZ Distributie の完全子会社化(それぞれ株式の 100%取得)ならびに CEZ Servicii への増資(持ち株比率を 63%に買い増し)をし積極的に事業展開して

いる。また、CEZ は 2009 年 2 月、トルコ企業 2 社(Akkok, Akenerji)と組んだコンソーシアムで、トルコ北西部の国営送電会社セダシュを 6 億ドルで落札した。これら CEZ による対外投資が、主要業種別でみた電気・ガス・水道の増加(前年比 6.6 倍)にもつながっている。

■ 対日輸入額は 3 割減

2009 年の対日貿易は、輸出が前年比 22.7%減の 4 億 2,524 万ドル、輸入が 30.3%減の 32 億 9,074 万ドルで、貿易収支は 28 億 6,549 万ドルの赤字となっている。チェコの輸出全体に占める日本の構成比は 0.4%で前年と同水準であった。対日輸出では自動車部品(構成比 8.9%)、エンジン部品(10.9%)を含む機械類・輸送用機器(49.0%)が最大であるが、前年比 34.3%減の大幅な減少となった。玩具・ブロック・模型(11.0%)は前年比 21.6%増加した。食料品・生きた動物(7.7%)は前年比 46.2%増だったが、ビールの原料となるホップ(5.8%)が

表 7 チェコの対日主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:1,000ドル, %)

	輸出(FOB)					輸入(CIF)			
	2008 年	2009 年				2008 年	2009 年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
機械類・輸送用機器	317,310	208,475	49.0	△ 34.3	機械類・輸送用機器	3,513,456	2,436,831	74.1	△ 30.6
雑製品	84,985	89,613	21.1	5.4	雑製品	719,666	530,444	16.1	△ 26.3
化学製品	47,156	44,096	10.4	△ 6.5	原料別製品	345,711	213,092	6.5	△ 38.4
食料品・生きた動物	22,399	32,741	7.7	46.2	化学製品	114,123	91,173	2.8	△ 20.1
原料別製品	63,952	31,574	7.4	△ 50.6	食料に適さない原材料	26,332	16,530	0.5	△ 37.2
食料に適さない原材料	12,685	18,362	4.3	44.8	鉱物性燃料	1,456	1,461	0.0	0.4
飲料・たばこ	213	214	0.1	0.3	食料品・生きた動物	1,608	950	0.0	△ 40.9
鉱物性燃料	1,048	168	0.0	△ 84.0	特種取扱品	177	138	0.0	△ 21.9
動植物性油脂	44	2	0.0	△ 96.0	飲料・たばこ	133	82	0.0	△ 38.2
特種取扱品	0	0	0.0	0.0	動植物性油脂	177	34	0.0	△ 80.6
合計	549,791	425,244	100.0	△ 22.7	合計	4,722,840	3,290,736	100.0	△ 30.3

表 8 チェコの対日主要商品別輸出入 <通関ベース>

(単位:1,000ドル, %)

	輸 出 (FOB)					輸 入 (CIF)			
	2008 年	2009 年				2008 年	2009 年		
	金 額	金 額	構成比	伸び率		金 額	金 額	構成比	伸び率
玩具・ブロック・模型	38,366	46,637	11.0	21.6	印刷機・ファックス, 同部品	488,899	471,813	14.3	△ 3.5
エンジン部品	66,190	46,492	10.9	△ 29.8	テレビカメラ・テレビ部品	701,294	406,477	12.4	△ 42.0
自動車部品	92,526	37,766	8.9	△ 59.2	ダイオード, トランジスター 等半導体デバイス	279,437	228,872	7.0	△ 18.1
液体ポンプ	47,525	25,434	6.0	△ 46.5	光ファイバー	198,434	165,189	5.0	△ 16.8
ホップ	18,247	24,671	5.8	35.2	液晶デバイス	258,932	139,559	4.2	△ 46.1
変速機, 伝動軸等	6,794	21,138	5.0	211.1	乗用車	228,271	130,814	4.0	△ 42.7
テレビカメラ・テレビ部品	5,977	17,084	4.0	185.8	集積回路	185,083	128,268	3.9	△ 30.7
木材	10,449	16,838	4.0	61.1	自動車部品	125,838	106,849	3.2	△ 15.1
顕微鏡	3,317	8,162	1.9	146.0	テレビカメラ, カメラ, 送信機器	185,594	101,220	3.1	△ 45.5
導火線, 点火器	9,501	7,728	1.8	△ 18.7	データ処理・事務機器部品	19,481	86,745	2.6	345.3
麦芽	3,572	7,532	1.8	110.9	データ処理機器	100,234	51,821	1.6	△ 48.3
気体ポンプ, 真空ポンプ	25,034	6,364	1.5	△ 74.6	電気回路用機器	77,200	49,101	1.5	△ 36.4
印刷機・ファックス, 同 部品	5,615	5,574	1.3	△ 0.7	気体ポンプ, 真空ポンプ	70,001	48,875	1.5	△ 30.2
合 計(その他を含む)	549,791	425,244	100.0	△ 22.7	合 計(その他を含む)	4,722,840	3,290,736	100.0	△ 30.3

前年比 35.2%増と大幅に増加したことが背景にある。

一方、対日輸入はチェコの輸入全体の3.1%を占め、前年とほぼ同水準であった。最大の輸入品目は、機械類・輸送用機器(構成比 74.1%)であったが、そのうち印刷機・ファックス、同部品(14.3%)、テレビカメラ・テレビ部品(12.4%)はそれぞれ前年比 3.5%減、42.0%減となった。特にテレビカメラ・テレビ部品の減少幅が大きい。これは 2009 年に日立製作所がチェコの薄型テレビ工場を閉鎖したことが影響しているとみられる。また、それに関連して液晶デバイス(4.2%)の輸入も前年比 46.1%減と大幅な減少となっている。

■ 日系企業による製造業関連の投資は減少傾向に

ジェットロ・プラハの調査によると、チェコに進出している日系企業は、242 社(2009 年末現在)で、そのうち製造業は 89 社となっている。投資額合計は約 31 億 1,500 万ドルで、被雇用者数は約 4 万 4,800 人に上る。しかし、チェコの賃金水準の上昇と労働力不足により、2008 年以降、日本の対チェコ直接投資は急激に減少した。2009 年の日本からチェコへの対内直接投資額(国際収支ベース、ネット)は、901 万ドルの引き揚げ超過となった。数少ない製造関連投資としては、筑水キャニコムが 2009 年 3 月、欧州市場で販売する乗用草刈機の生産を委託するため、チェコのアグロストロイ社と提携した例がある。その他、製造以外でチェコの労働コストや産業・人材基盤を利用した投資案件が見られた。オリンパスが 2009 年 11 月、600 万ユーロを投じてプジェロフ市に医療用機器のテクノロジーセンターを開設すると発表した。2010 年に入ってから、シスメックス(医療関係機器の開発製造)がブルノ市に教育センターを開設している。非鉄金属製錬業の DOWA メタルマイン株式会社(持ち株会社 DOWA ホールディングスの子会社)など 3 社は 2010 年 6 月、4 億 3,000 万円(約 390 万ユーロ)を投じて、使用済み自動車触媒関連のサンプリング工場をリベレッツ市に設立すると発表した。また、CD・DVD の製造・販売業のソニー DADC は同月、西部ブルゼニュー市近郊に CD・DVD の梱包を行うサービスセンターを設立するため、同市内の工場の長期賃貸契約を締結している。